



令和元年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【光が丘地区】

令和2年3月31日現在

| 団体名 | 事業等の名称 | 事業の概要 (申請時) | | | 交付決定 年月日 | 事業予算(単位:円) | | |
|--------------------------|-------------------|---|--|---|-------------|------------|---------|---------|
| | | 事業の背景 | 事業の目的 | 事業の内容 | | 全体額 | 申請額 | 交付金額 |
| 1 光が丘地区こども応援団 | 地域で子どもを見守り育てる活動事業 | <p>夫婦共働きが増え、過去に保護者が担っていた見守り活動等を行うことが、時間的にも難しくなっている。しかしながら、児童を標的にした犯罪や自転車事故等は依然として数多く発生し、保護者は子どもたちを自由に外出させることや、子どもたちの居場所が少ないことに不安や不便を感じている。</p> <p>このような現状を受け、数年前から小中学校PTAのOB等によって、放課後のこどもの居場所作りも含め、地域で子どもを育てる活動の実施について検討を行い、それを実行に移すため、昨年12月に「光が丘地区こども応援団」を立ち上げた。</p> | <p>・地域において学校の登下校以外の時間帯の子どもの安全(犯罪、事故を防ぐ)を確保する。</p> <p>・学校と地域の協働事業(職場体験先の紹介、地域との交流行事)を円滑に進める。</p> <p>・子ども関係団体と協力し、地域の課題などに向き合い、協議する。</p> | <p>・通勤や買い物の行き帰り、また早朝や深夜において可能な時間帯に見守りを実施する。また、不審者、危険箇所、自転車マナーなど地域の中での安心安全対策における声掛け運動も行う。</p> <p>なお、見守り活動時には、会の活動の周知と不審者への警戒を促すことを目的として、当会のロゴマークの入ったユニフォームを着用し、自転車や車にはプレートを貼付する。</p> <p>・学校と地域を結ぶコーディネーターとしての役割を担う。また、学校から要請があった際にはボランティアとしても協力する。</p> <p>・課題や対策に応じ、必要な知識や実践方法を学ぶための研修会や勉強会を開催する。</p> <p>(第1弾として、「友だちづくり」をテーマに「劇団うけつ」による公演を小学生及びその保護者を対象に実施する)</p> <p>・会の活動を周知するため、「こども未来ワールドin光が丘」等の地域イベントにおいて、会の活動内容の紹介等を行う。</p> | R1.5.23 | 380,000 | 380,000 | 380,000 |
| 2 こども未来ワールドin光が丘実行委員会 | こども未来ワールドin光が丘 | <p>光が丘地区では、地域活動の担い手不足が深刻なことから、中高生が地域活動へ参加できる仕組みの構築を進めており、現在も、多くの中高生がボランティアとして地域のイベント等へ協力をしてきている。</p> <p>しかし、担い手の高齢化も進み、次の世代にどのように地域の伝統等を引き継いで行くかが課題となっており、若者世代に、自ら考え実行する機会の提供が求められている。</p> | <p>子どもたちに事業を企画運営する機会を提供し、大人たちはそのサポートに徹する。子どもたちは、実行委員となることで自立性・協調性・考える力を養い、事業実施による達成感を味わうことで大きく成長することと考える。</p> <p>高齢化が進み、地域活動の担い手が不足する中、子どもたちを地域で育て、将来的には、地域の担い手となるよう、子どもたちの成長を目的としている。</p> | <p>若者世代を中心に大人実行委員組織を立ち上げ、企画運営に携わってもらう小学生の実行委員を募集し、集まった子どもたちで「こども実行委員会」を立ち上げ、企画・運営を行う地域イベントを11月23日(月・祝)に淵野辺公園にて実施する。</p> <p>事業は、4つのコーナー(ステージ・こども・スポーツ体験・模擬店)を設け実施する。コーナーの内容等は、子どもたちが「こども実行委員会」で話し合っ決めて、当日の運営も子どもたちが中心となって行う。本年度もこども実行委員を卒業した中学生が企画、運営に参加する予定であり、新たな企画を立ち上げ事業の拡充を図る。</p> <p>以下、昨年度の実績。</p> <p>・こどもコーナー スタンプラリー、段ボール迷路、カフェ、工作、手作りゲーム</p> <p>・スポーツ体験コーナー(サッカー、アメフト、ラグビー)</p> <p>・ステージコーナー(ダンス、軽音楽、大道芸等)</p> <p>・模擬店コーナー</p> | R1.7.23 | 760,000 | 380,000 | 380,000 |

| 団体名 | 事業等の名称 | 事業の概要 (申請時) | | | 交付決定 年月日 | 事業予算(単位:円) | | |
|-----------------------------------|--------------------|---|---|--|-------------|------------|-----------|-----------|
| | | 事業の背景 | 事業の目的 | 事業の内容 | | 全体額 | 申請額 | 交付金額 |
| 3 光が丘地区の防災を進める会 | 防災意識の啓発と、自助・共助推進事業 | <p>光が丘地区は住宅密集地であるが、新耐震基準を満たしていない家屋も数多く存在し、建物の倒壊や火災による延焼を食い止めることのできない狭い通りや、消防等の救助活動を阻む狭隘道路も多いことから、「30年以内に80%以上の確立で発生する」と言われている大規模地震等が発生した際には、本地区においても、阪神淡路大震災や東日本大震災に匹敵するほどの、激甚かつ凄惨な被害が予想される。</p> <p>しかし、この事実を正しく認識し、備えている地域住民は少ないと感じており、地域防災の重要性と自助の必要性に対する地域住民の認識を高めていく必要がある。</p> <p>また、大規模災害発生時において、地域住民の安否確認をどのように行うかが課題となっている。</p> | <p>・地域住民に「巨大地震はもうすぐ起きる」という覚悟をもってもらう。</p> <p>・減災のためには、日頃の備え(自助・共助の取組)が頼りであることを知ってもらう。</p> <p>・大規模災害発生時において、地区内住民の安否確認を迅速に行う。</p> | <p>・昨年度交付金を活用し作成したのぼり旗を地区内で行う各種イベント(ふるさとまつりなど)において掲示する。</p> <p>・「黄色い小旗」を作成・各戸配布し、大規模災害時において玄関先など外から見やすいところに掲示してもらうことにより安否確認を行うための訓練を行う。(旗が出ているときは「安全」、出ていなければ「要救援」など)</p> <p>・東京大学地震研究所 地震予知研究センター長である平田直氏を招いて、首都直下地震等が発生した際に、相模原市で想定される被害や、日頃の自助・共助の取り組みの重要性などについてお話いただき、地域住民の防災意識を高める。また、この講演会での学びを取り入れた普及啓発方法等について検討を行い、以後の取り組みにつなげる。</p> <p>・防災マイスターを活用し、地区内の幼稚園などを対象に、防災に関する意見交換や講演会等を開催する。</p> | R1.7.23 | 1,295,000 | 1,295,000 | 1,295,000 |
| 4 光が丘地区社会福祉協議会 福祉の里づくり推進委員会 | 若者世代の地域活動への参加促進事業 | <p>地域内にある小、中、高、大学に通学する若者及び地域に在住する若者世代が、地域の福祉活動へ積極的な関わりを持つことで、世代を超えた地域の繋がりを強化できると考える。そのためには、若者世代が役割を持ち、継続的に参加できる仕組みを構築することが重要である。地域のボランティア団体、個人ボランティアと協働し、障がい者や高齢者への手助けなどを経験し、若者世代が地域で担うことのできる役割を理解する活動が必要である。</p> | <p>地区は65歳以上の高齢者の割合が32.1%(平成31年4月)と、区内でトップの高齢化率となっている。その中にもあっても、毎年開催している「光が丘地区ふるさとまつり」に代表されるように、地域住民のつながりや地域福祉に対する想いは極めて強く、「福祉コミュニティ形成モデル事業」は市内のトップを切って実施された。</p> <p>しかしながら、その担い手の高齢化が顕著となり、このコミュニティの持つ強みの存続が危ぶまれている。そこで、継続的に若者世代が地域の活動に参加することを促進しようというのがこの事業の目的である。</p> | <p>多数の地域イベントに若者世代が参加しやすいように活動場所を設定し、地域住民や高齢者、障がい者と関わる中で自然に地域社会が抱える課題に気付き、自ら参加の仕方を考える機会を提供する。加えて、まちの将来を担う中学生・高校生が、地域の将来を考える場として「こどもまちづくり会議」を設置し、若者の目線で独自に企画する活動事業を検討する場を設ける。また、机上で会議するだけでなく視察などに赴き、実際に目で見て体験することで、より実践的な活動に繋げる。</p> <p>福祉の里づくり委員会としては、地区内の様々な団体からの要望等を取りまとめ、学校との調整を行うとともに、ボランティア参加者へは「ボランティア手帳」を配布し活動を継続的に記録することで、活動に対するモチベーションを維持し、ボランティア養成を行う。</p> <p>ボランティア参加者には、中学卒業時に記念品と感謝状を贈呈する。</p> | R1.9.17 | 360,000 | 180,000 | 180,000 |
| 5 光が丘買い物お助け隊 | お助けカー運行事業 | <p>市内でも高齢化率の高い光が丘地区で、高齢者に関する課題についてアンケート調査を実施した結果、買い物への支援に係る要望が多いことが判明した。</p> <p>当地区は一見、大型店舗も多く、公共交通であるバス路線も充実しているように見られやすいが、実際には、バス停から300m以上離れた交通不便なエリアを抱えており、高齢により歩行や自家用車及び自転車運転が不自由になると、とたんに自由な買い物ができなくなるという問題を抱えている。</p> <p>高齢者等が自由に買い物ができるということは、生活上の必要性もさることながら、生活の中の喜びとも言える部分であり、介護が必要とならない元気なお年寄りであり続けていただくためにも、移動手段の確保等の支援が必要である。</p> | <p>光が丘地区で交通不便な地域を巡回するワゴン車を定期的に運行し、地区内及び隣接地域にある大型スーパーマーケットでの買い物を可能にするを目的とする「お太助カー運行事業」を行うものである。</p> | <p>定員7名乗りのワンボックスカーを地域の社会福祉法人から運転ボランティアとともに提供を受け、本会が実際の運行管理を実施。現在のお太助カーの利用者は38人。</p> <p>運行は、週に3日、2回/日という間隔で、一定の時刻表に則って行う形態を前提としており、昨年10月から6ヶ月間試験運行し、その結果を検証して本年4月から本格運行を実施している。</p> <p>なお、本事業に必要な経費は、ガソリン代、周知・需給調整などの運営に係る諸費用、消耗品等であるが、運転者への謝礼は本会からの支弁は一切なく、有償運送とならないなど、道路運送法などの公的規制に抵触することのない仕組みとしている。</p> | R1.9.17 | 182,400 | 30,000 | 30,000 |

| 団体名 | 事業等の名称 | 事業の概要 (申請時) | | | 交付決定 年月日 | 事業予算(単位:円) | | |
|----------------------|------------------------------|---|--|--|-------------|------------|-----------|-----------|
| | | 事業の背景 | 事業の目的 | 事業の内容 | | 全体額 | 申請額 | 交付金額 |
| 6 エンジョイ ボッチャ | ボッチャを活用した多世代交流事業 | 高齢化、核家族化の進展に伴い、隣近所であつてもコミュニケーションをとる機会が少なくなることにより、人間関係が希薄化し、世帯や個人の孤立化が課題となっている。 災害時や緊急時のためにも日頃から顔を合わせ、言葉を交わす関係を築いておくことが大切であり、地域住民の交流を促進し、連帯を強化していく必要がある。 | ボッチャは、ルールが簡単で身体にも負担をかける運動であり、障害の有無に関わらず、世代を越えて楽しめるスポーツである。このボッチャを地域に普及させることで、地域住民の横のつながりを構築し、地域住民一人一人の生活の活性化を図る。 | 来年開催される東京パラリンピックの正式種目であるボッチャを活用して、障害の有無や世代を超えた地域住民相互の交流を促進し、地域活性化を図る。 1) 講習会の開催 2) 各種媒体によるPR活動 3) 地域の公共的な活動団体(公民館、地区社会福祉協議会、学校等)との連携活動 次年度は、多世代の方が参加した大会を開催すべく、事業の普及啓発を図る。 | R1.11.20 | 154,000 | 114,000 | 114,000 |
| 相模原市自治会連 合会中央区連絡会 | 中央区振り込め詐欺対策事業 9地区合同事業 | 高齢者をねらった振り込め詐欺被害が全国的な課題となる中、中央区内でも被害が多発している。平成30年度には、相模原市自治会連合会中央区連絡会として、振り込め詐欺防止ステッカーによる高齢者向けの詐欺対策事業を実施したところだが、令和元年も被害件数は増加しており、危機的な状況にある。最近、警察官や銀行、市役所の職員等に成りすまして、暗証番号を聞き出し、キャッシュカードをだまし取る被害も多発していることから、地域の防犯意識の高揚や犯罪を寄せ付けない住環境の創出が求められる。 | 被害の中心となっている高齢者に向けた啓発だけでなく、詐欺被害防止という目線で周り的高齢者を気にかける地域づくりのため、防犯啓発プレートを作成・掲出し、周知・啓発する。 | ・防犯啓発プレートの作成 サイズ:縦30cm×横23cm(角)、厚み0.5mm 材質:PVC(白)、PETコート 数量:4,000枚 ・防犯啓発プレートの掲出 自治会員宅など、地区内で見やすい場所に掲出する(掲出場所は各地区の判断によるが、電柱への掲出は決して行わない)。 | R2.1.27 | 1,778,000 | 1,778,000 | 1,778,000 |
| | | | | | | 3,131,400 | 2,379,000 | 2,379,000 |

9地区合同事業以外の合計額